

第 74 回卒業証書授与式 校長式辞

令和 4 年 3 月 1 日

ここ、上野が丘にも、早春の息吹が満ち始めたこの頃です。コロナウイルス感染拡大防止のため、例年とは少し違う形になりますが、本日ここに、兵庫県立神戸高等学校第 74 回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びでございます。これも、保護者の皆さまに、人数制限に関してご理解をいただくなど、多くの方々からご理解とご協力を賜ったおかげと、心より感謝申し上げます。

ただ今、蛍雪の功なり、卒業証書を手にした 357 名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんのこれまでの努力と研鑽に、心より敬意を表します。皆さんは、人生の中で最も多感な高校時代を、ここ神戸高校で過ごし、心身共に、大きく、そして逞しく成長しました。

神戸高校は全人教育を標榜しています。他の高校では決して経験できない多くの学校行事や活発な部活動があります。しかしこの 2 年間は、常にコロナウイルスにより、これまでの学校生活とは異なる生活様式が強いられました。けれども、君たちは、多くの制約がある中で、やりたいことがやれない状況が次々と生じてくる中で、持ち前の底力を見事に発揮していきました。限られた時間であっても、その時間を精一杯活用できる集中力、自己実現を目指す志、そして、そのために努力し続けられる根性を見せてくれました。こんなに素晴らしい君たちと共に、3 年間一緒に学校生活を送ることができたことは、私にとって大きな幸せであり、誇りでもあります。君たちは、私の自慢の生徒であります。

ところで、人生の目的とは何か。私は、人類に貢献することだと思っています。だから、人の役に立っていると思ったとき人は喜びを感じ、人類の一員である自分を磨き高めていると思うとき、充実感を持つのだと思います。違う言葉で表現するならば、社会貢献と自己実現です。

これから皆さんが活躍していく社会は、AI や IoT 等のめざましい進歩による Society5.1 と呼ばれる超スマート社会です。未来の姿を予測することが極めて困難な時代を迎えています。

また、昨今の社会情勢を見てみると、毎年起こる地震や豪雨などの自然災害、待ったなしのエネルギーや環境の問題、また、少子高齢化の問題など、知識だけでは答えが見つからない難しい課題が山積しています。コロナウイルスとの戦いも、残念ながらまだ終わってはいません。

このように進むべき先が見えにくい時代にあって、皆さんには、人々の先頭に立って藪をかき分けながら進む人のように、未来への道を切り拓き、自分のための、そして自分の後に続く人々のための道を作っていく人になって欲しいと思います。

皆さんは、そのための人としての総合力、底力を、この神戸高校で培ってきました。そしてこれから、社会において、この底力を発揮するためには、皆さんが 3 年間日々接

した、四綱領を実践し続けることが大切です。

「質素剛健」は、真面目で実直、勇気あることです。「自重自治」は、自らの使命を重んじ、品性を保ち、自らが定めたことによって自らの行為を律することです。「質素剛健」「自重自治」。実直で勇気があり、品性を保ちながら自らの使命を重んじる生きざまが、自らを高め、人々を惹きつけるのです。皆さんには、是非そういう生きざまを積み重ね、社会貢献と自己実現を果たして欲しいと願っています。

さて、保護者の皆様、本日は誠にめでたうございます。大切なお子さまをお預かりし、本校職員一同、至らないところもあったかもしれませんが、心の限りにお子さまの成長のために努めてまいりました。この間、本校の教育方針にご理解を賜り、本校にお寄せいただいたご厚情とご支援に対しまして、職員を代表いたしまして、心からお礼申し上げます。

また、ご多忙中にも関わりませず、PTA会長様、同窓会長様には、ご来賓の代表としてご臨席を賜りました。衷心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、私は、皆さんの卒業アルバムに「誠」の文字を贈らせていただきました。小説「坂の上の雲」で有名な軍人であり教育者でもあった秋山好古がこんなことを言っています。

「日が暮れたら、天を見なさい。絶えず動かない北極星は旅の道しるべになります。世を渡る場合には、誠の心が道に迷わぬための磁石となります。曲がった道に入ったと不安になった時は、自分の誠に問うてみなさい。天が与えた良心はいつもあなたたちを導き守ってくれることでしょう。」と。

私は、君たちが、自分の誠に従い、誠実に正々堂々と大道を歩いていく様子を楽しみに見えています。

さあ、いよいよ凶南鵬翼、旅立ちのときです。

春蘭の気品と楠のたくましさを持つ、357羽の鵬雛は今日、鵬となり、春風に乗って、高き学び舎から、未来へ羽ばたいていこうとしています。日本一素晴らしい校歌を心に刻みながら飛び立って行ってください。

一人ひとりの未来が、光り輝くものとなることを心からお祈りし、式辞といたします。

令和四四年三月一日

兵庫県立神戸高等学校長 世良田 重人